

# JSPS Strasbourg Office

日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター活動報告（2007年1月～3月号）

歴史的な暖冬と言われるこの冬ですが、1月はさすがに寒い日が続き、ストラスブールにも雪が積もりました。しかし、冬至の頃は午後4時を過ぎれば暗かったのが、だんだんと日が長くなり、3月になると、冬枯れの並木の中、木蓮などはつぼみが膨らんできて、春の芽吹きが準備されているのを見つけることができます。4月はじめに迎える復活祭（イースター）を祝うための、ウサギの形のチョコレートもお菓子屋のショーウィンドーに並びはじめました。



## 学術セミナー及びルイ・パスツール大学（ULP）との Joint Seminar の開催

1月～3月は合計6回のセミナーを開催しました。

- 1/11 第52回学術セミナー 中村尚武教授（立命館大学）  
「グリセリンおよびグリセリン誘導体の電気粘性効果」
- 1/12 第10回 ULP-JSPS 合同セミナー 原 千秋助教授（京都大学経済研究所）  
「効率的リスク配分ルールと代表的消費者の効用関数の必要十分条件」
- 2/5 第11回 ULP-JSPS 合同セミナー 笹川千尋教授（東京大学医科学研究所）  
「病原細菌の感染における宿主細胞機能誘導と妨害：赤痢菌を例にして」
- 2/20 第53回学術セミナー Prof. Marie-Claire LETT（ルイ・パスツール大学）  
「環境における砒素サイクル：微生物による変換の役割」
- 3/9 第12回 ULP-JSPS 合同セミナー 草間博之助教授（東京工業大学大学院理工学研究科）  
「遷移金属含有イリド種を経由する多環性骨格構築手法」
- 3/30 第13回 ULP-JSPS 合同セミナー 永野 肇教授（お茶の水女子大学理学部）  
「中国横断山脈地域におけるキク科リグラリア属植物の種内多様性 - Guy OURISSON 先生を偲んで」



第52回 学術セミナー  
講演者 中村尚武教授（中央）



第10回 ULP-JSPS 合同セミナー  
講演者 原千秋助教授（右端）



第11回 ULP-JSPS 合同セミナー  
講演者 笹川千尋教授（右端）



第53回 学術セミナー  
講演者 Marie-Claire LETT 教授  
（左より3人目）



第12回 ULP-JSPS 合同セミナー  
講演者 草間博之助教授（壇上）



第13回 ULP-JSPS 合同セミナー  
講演者 永野 肇教授



## 第 7 回日仏科学技術協力合同諮問委員会への中谷センター長の出席

2月8日から2月9日の2日間、パリで第7回日仏科学技術協力合同諮問委員会(The 7th Meeting of France-Japan Joint Advisory Council (CCC) on Cooperation in Science and Technology)が開催され、当センターの中谷センター長が、研究者交流担当の日本側諮問委員として出席しました。本委員会は、日仏共同議長(フランス側: フランソワ・グロ科学アカデミー名誉終身書記、日本側: 吉川弘之産業技術総合研究所理事長)をはじめ、両国政府によりそれぞれ指名される、学会、産業界等を代表する著名な指導者で構成されており、両国間の全般的科学技術関係について、勧告することを任務としています。

委員として出席した中谷センター長は、担当である日仏研究者交流についての発表を行い、日仏学術振興機関の間で現在進行中のプロジェクトと今後の計画を紹介しました。特に、本会事業については、招聘事業(フェローシップ)、対応機関(CNRS, INSERM, INRA, INRIA, MAE, ANR)との間で実施している二国間事業、第1回日仏先端科学(JFFoS)シンポジウム、ストラスブール研究連絡センターの活動、フォーラム・セミナーに言及し、その成果を報告しました。さらに、日仏研究者間で盛んに行われているボトムアップ活動(大学間交流、日仏共同学会等)への支援と日仏研究者ネットワークの構築の必要性を提案しました。



## フランスの大学、ガラベール、研究機関への訪問: JSPS 事業説明会・JSPS 同窓会支部会の実施

当ストラスブールセンターは、フランス各地の大学を訪問し、直接に研究者と対話を行い、また、その機会に各地のJSPS同窓会との交流を深めています。(今号では、2006年10月~2007年3月までの間の訪問を報告します。)

10月26日・27日 Sciences Po(パリ政治学院) Université Sorbonne Nouvelle(パリ第3大学) Université René Descartes(パリ第5大学)

26日に Sciences Po(パリ政治学院)を訪問し、Gerard GRUNBERG 研究担当副学長らと、国際交流についての意見交換、同学院見学を行いました。パリ政治学院は社会科学系の分野のみに特化したエリート校であり、卒業生にはミッテラン元大統領や、シラク大統領を筆頭に多くの政治家がいます。1872年に創設され、職業教育(実学)に特化したユニークなカリキュラム等で高い評価を受けています。学生5,000人のうち1,300人が外国人という国際化された大学でもあり、日本との交流も盛んで、早稲田大学内に日本事務所を設けて、早稲田大学、慶應大学、立命館大学、一橋大学等と学生交流を行っています。

続いて、パリ第3大学(Université Sorbonne Nouvelle)訪問し、Bernard BOSREDON 学長を表敬訪問、同学長、Polymnia ZAGEFKA 評議会担当副学長、Pierre CIVIL 研究担当副学長と意見交換しました。パリ第3大学は学生数19,000人の規模で、文学、言語、演劇、映像等の人文科学分野を中心とした教育・研究を行っています。49カ国と750名程の学生交流があり、博士課程における外国人学生の割合が46%を占め、これらの分野で同校がフランスでの指折りの水準にあることを示しています。同校は Presses Sorbonne Nouvelle という人文科学分野の出版部門を持っています。また、パリ第3大学は、パリ第2大学、パリ第6大学、パリ第9大学、ENS(Ecole normale supérieure) EHESS(École des hautes études en sciences sociales)と大学同盟を作って、教育・国際関係などで共同歩調をとっています。

27日には、パリ第5大学(Université René Descartes)薬学部及び医学部を訪問しました。パリ第5大学は学生32,000人をおかえ、医・薬・歯・法・人文・心理などの諸学部をもつ総合大学です。なお、パリ第5大学は1970年の大学改組に伴いパリ大学を分割して誕生した13の大学(パリ第1からパリ第13まで)の一つですが、近年の大学再統合の動きに合わせて、パリ第1、パリ第5、パリ第7という3つの大学で、PRES - Paris Centre Universités という大学連合を2006年に形成しました。(PRES: Les pôles de recherche et d'enseignement supérieur 研究・高等教育拠点)

同校の薬学部は、日本との研究者交流が盛んで、パリ第5大学-CNRS 共同研究ユニット長の Dr. Jacques ROYER は、日仏

精密薬理化学会のフランス側代表者を前任者の Philippe HUISSON 教授より引き継いでいます。今回の訪問では、薬学部・医学部での研究室訪問に加えて、薬学部においてパリ JSPS 同窓会支部会との共催による JSPS 事業説明会を実施し、数名の同窓会員によるプレゼンが行われました。



パリ政治学院にて  
Gerard GRUNBERG 研究担当副学長(左から 2 人目)、Madani CHEURFA 研究プロジェクト担当(右端)



パリ第 3 大学にて  
Bernard BOSREDON 学長(右から 2 人目)、Polymnia ZAGEFKA 評議会担当副学長(左から 2 人目)、Pierre CIVIL 研究担当副学長(右端)



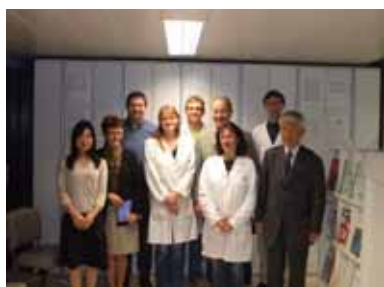
パリ第 5 大学薬学部にて  
Jacques ROYER 博士(右から 3 人目)、Philippe HUISSON 教授(左から 2 人目)、Hamid DHIMANE パリ第 5 大学医学部教授(右端)、Julie KEIRSSE CEA 研究技官、JSPS 同窓会幹部(左から 3 人目)

#### 12 月 5 日・6 日・7 日 Université Reims (ランス大学) パリ日本文化会館

5 日および 6 日に、ランス大学の医学部、薬学部、理学部を訪問し、Thierry COME 国際担当副学長ら大学幹部と意見交換を行いました。ランスはシャンパンで有名なシャンパーニュ地方の中心都市であり、また歴代のフランス王が即位式を行ったランス大聖堂で有名な古い歴史を持つ街です。ランス大学は 1548 年にローレーヌ枢機卿によって設立されましたが、1793 年フランス革命によって廃止となりました。新しいランス大学は、1960 年代に設立された幾つかの単科大学が 1971 年に合併して出来たもので、現在は、文系・理系両方の学部を揃えた学生 21,000 人の総合大学となっています。理系では、「数学とマテリアルサイエンス」そして農業生産の盛んな土地柄「農業科学」に特徴があります。また、日本との交流も盛んで、化学の研究ユニット長 Charles PORTELLA 教授は、2007 年開催予定の「日仏フッ素化学セミナー」の責任者です。同大学では中谷センター長の学術講演会と、JSPS 事業説明会を併せて開催しました。

また、7 日はパリの日本文化会館を訪問し、中川正輝館長を表敬訪問しました。日本文化会館は、日仏政府の協力のもと、日本の文化を海外に紹介する在パリの機関として 1997 年に設立されました。現在では、国際交流基金の海外事務所の一つとして運営され、講演会、展示会、コンサート等様々なイベントを通じて日本文化の発信を行っています。

続いて、CNRS 本部を訪問し、CNRS と当センターが年 2 回行っている日本学術振興会外国人特別研究員(欧米短期)事業の 2007 年第 1 回共同選考会を、CNRS アジア・パシフィック課長 Dr. Minh-Ha PHAM-DELEGUE、同課日本・韓国担当 Ms. Monique BENOIT と実施しました。



ランス大学理学部研究室訪問  
Charles PORTELLA 教授  
(後列右から 2 人目)



パリ日本文化会館にて  
中川正輝館長(中央)



CNRS 本部にて  
Minh-Ha PHAM- DELEGUE 博士  
(左から 2 人目)  
Monique BENOIT 氏(同 3 人目)

12月20日・21日・22日 Université Rouen(ルーアン大学) GANIL(国立重イオン加速器研究所) CYCERON(脳画像・神経科学研究所) 及び Université Caen Basse-Normandie(カーン大学) 訪問

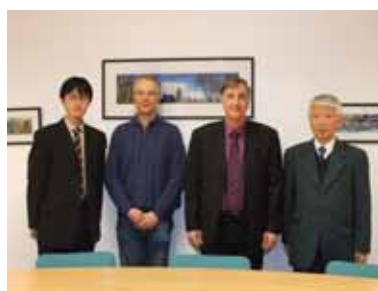
20日及び21日にかけて、Jean-Luc NAHEL ルーアン大学学長の招待により大学訪問を行い、文学・人文社会科学学部、科学技術学部のキャンパス訪問、幾つかの研究所の見学を行いました。各学部ではそれぞれ JSPS 事業についての説明を行い、日仏交流についての意見交換を行いました。ルーアン大学は医学や法学の単科学校を合併して1966年に大学となり、現在は6箇所に分かれたキャンパスに23,000人の学生が学んでおり、日本の弘前大学、明治大学等と交流があります。ノルマンディー地方の特徴は、同地方の高等教育機関がPôle Universitaire Normandie という共同体を作っていることです。例えば博士課程では、ルーアン大学、カーン大学、ル・アーブル大学、INSA ルーアン(Institut National des Sciences Appliquées de Rouen)、ENSI カーン(Ecole Nationale Supérieure d'Ingénieurs de Caen)が共同で「法学」「経済・経営」「人文社会」「化学・生物」「数学・物理・情報」の5つの共同博士課程を運営しています。訪問したノルマンディー化学・生物博士課程には、40の研究室、500人の教授・研究員、370人の博士課程学生が所属しています。

21日には、カーンに移動して、GANIL(国立重イオン加速器研究所)を訪問し、GANIL 所長 Prof. Sydney GALES、GANIL 研究員(JSPS フランス同窓会副会長) Dr. David BOILLEY と、エネルギー分野における日仏 Workshop 開催について協議を行いました。また、近接したCYCERON(Centre D'Imagerie Cérébrale et de la Recherches en Neurosciences)というポジトロン放射による脳のトモグラフィーの研究所(所長: Dr. Louisa BARRE)を見学しました。

22日には、Université Caen Basse-Normandie(カーン大学)を訪問し、カーン JSPS 同窓会支部会との共催により、JSPS 事業説明会を開催しました。カーン大学は、1432年設立という古い歴史を持ち、特に18世紀においてはフランス地方でも最も重要な大学のひとつでした。第2次世界大戦では、カーンは有名なノルマンディー上陸作戦が実行された場所として激戦地となり、カーン大学も殆ど廃墟となってしまいましたが、戦後1957年に再建されました。現在では学生数24,000人、11学部と6研究所を持つ大規模な総合大学です。ついで、同じ敷地内にあるENSI-CAEN(Ecole Nationale Supérieure d'Ingénieurs de Caen)という1976年設立の総合エンジニアリングスクールを訪問しました。3年教育で、その間8ヶ月の外国研修を必修とするカリキュラムを持ち、700人の学生が学んでいます。



ルーアン大聖堂前にて  
Jean-Luc NAHEL ルーアン大学  
学長(左端)



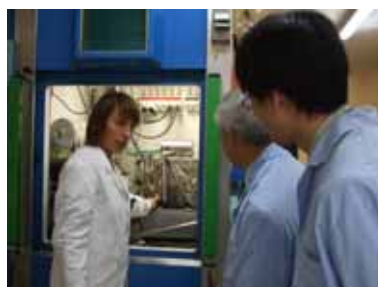
GANIL にて  
Sydney GALES GANIL 所長(左から2  
人目) David BOILLEY JSPS フラン  
ス同窓会副会長(同3人目)



カーン大学にて  
白石副センター長による  
JSPS 事業説明会の様子



ルーアン大学科学技術学部にて  
Didier BLAVETTE 研究ユニット長  
(右から2人目)  
Bernard DECONIHOUT 教授、JSPS  
OB(右端)



CYCERON にて  
Cecile PERRIO CNRS 研究員  
(左端)



カーン大学にて  
JSPS 同窓会員によるプレゼン  
右から Matthieu DENOUAL 博士、  
David BOILLEY 博士、Anthony  
MARCHIX 氏

1月30日・31日・2月1日 Université Nantes (ナント大学) Université Maine (ルマン大学) 訪問

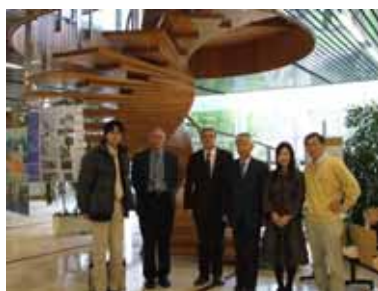
ナント大学は、ナントの位置するロワール川周辺の大学の中でも代表的な教育・研究機関で、特に医学研究のレベルの高さで有名で、日本の長崎大学などと交流を行っています。

ナント大学の生物・医学部(30日)、科学・技術学部(31日)を訪問し、これらの学部に関するいくつかの研究室や Jean-ROUXEL 材料研究所(所長: Prof. Serge LEFRANT)を訪問しました。また、Francois RESCHE 学長を表敬訪問し、Jacques GIRARDEAU 研究担当副学長、Jean-Claude MESLIN 科学・技術学部長ら大学幹部と意見交換を行いました。さらに2つのキャンパスにおいてナント JSPS 同窓会との共催で JSPS 事業説明会を行い、数名の同窓会員によるプレゼンも行われました。

続いて、2月1日にはルマンにある Maine 大学(ルマン大学)を訪問し、Maurice HENRY 学長への表敬訪問、Jean-Francois TASSIN 研究担当副学長、Yvon CALAGE 国際担当副学長らとの意見交換を行いました。Maine 大学は法経学部、人文学部、科学技術学部の3つの学部とエンジニアリングスクール等からなる学生数8,000名の中規模の大学ですが、学部はルマン市の郊外にある1つのキャンパスに集まるなど、大学として良くまとまっています。Maine 大学では、中谷センター長の学術講演の後、ルマン JSPS 同窓会との共催による JSPS 事業説明会を開催し、同窓会員数名からの活発なプレゼンがありました。また、物理・化学の研究棟を訪問し、北海道大学、福井大学、学習院大学などの日本の大学と盛んに学術交流を行っている様子が伺えました。



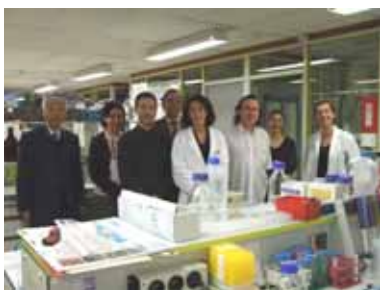
ナント大学にて  
Francois RESCHE ナント大学学長  
(中央) Jacques GIRARDEAU 研究  
担当副学長(左から2人目)  
Jacques AUBRY 医学部教授(右端)



ナント大学 Jean-ROUXEL 材料研究  
所にて  
Serge LEFRANT 研究所長  
(左から3人目)  
Richard ROBINS(左から2人目)  
Masayuki TAKAHASHI 博士(右端)



ナント大学科学・技術学部にて学部  
幹部との意見交換  
左より、Serge AKOKA 教授、  
Jean-Claude MESLIN 学部長、  
Pascal GRESSIER 教授(4人目)、  
Charles TELLIER 教授(5人目)



ナント大学生物・医学部にて  
Régis BATAILLE 博士(右から3人目)  
研究室訪問 大阪大学・岸本忠三教  
授との共同研究を行っている。



ルマン大学にて  
Maurice HENRY ルマン大学学長(右  
から3人目)  
Jean-Francois TASSIN 研究担当副  
学長(同5人目)  
Gilles DUJARDIN CNRS 主任研究員  
(右端)



ルマン大学にて  
中谷センター長の学術講演会

2月14日・15日・16日 Université Joseph Fourier ( グルノーブル第1大学 ) INPG ( グルノーブル工科大学 ) MINATEC ( マイクロエレクトロニクス・ナノテクノロジーイノベーションセンター ) INRIA Rhône-Alpes 研究所及び Université Lyon-1 ( リヨン第1大学 ) 訪問

14日及び15日にかけて、グルノーブルを訪問し、市内にあるグルノーブル第1大学、INPG、MINATEC、INRIA Rhône-Alpes 研究所を訪問しました。14日に訪問した INPG に所属する ENSIMAG は1960年に創立された情報・応用数学の分野で名高いグランゼコールで、東京大学、京都大学、KDDなどと盛んに交流があり、また15日に訪問した INRIA の研究所では東京工業大学との共同研究についてプレゼンがありました。同日に訪問した MINATEC は、フランス政府が各地域の産業の活性化を図り、国際競争力を増強して、より魅力的な地域にするために2004年に開始した産業クラスター ( Les Pôle de Compétitivité ) プログラムのひとつとして選ばれた Minalogic の中心機関です。Minalogic は、66ある産業クラスターのなかでも、6つしかない世界レベルの競争力を持つ拠点 ( Pôle de Compétitivité Mondiaux ) のひとつとして選ばれ、Rhône-Alpes 地方のグルノーブルを中心にして、MINATEC ほか60以上の企業、高等教育・研究機関、地方自治体から出ています。また、MINATEC では、フランス全国の学生を対象とした「マイクロエレクトロニクス・ナノテクノロジー」講習会を行っています。東北大学、広島大学との交流も紹介されました。

研究機関の訪問と併せて、グルノーブル JSPS 同窓会と共同で、グルノーブル大学連合 ( 第1・第2・第3 ) とグルノーブル工科大学を対象とした JSPS 事業説明会を開催しました。グルノーブル同窓会支部会からは、Dr. Hamid NEDJAT ( グルノーブル第3大学、JSPS 同窓会幹部 )、Prof. Eric BEAUGNON ( グルノーブル第1大学、第1回 JF-Fos コーディネーター、JSPSOB )、Prof. Christian BOITET ( グルノーブル第1大学、JSPSOB ) など、所属も研究分野も異なる6名の同窓会メンバーが日本での研究や生活についてプレゼンテーション、ディスカッションを行い、大変意義のある訪問となりました。

16日はリヨン第1大学にて、リヨン JSPS 同窓会支部会の支援を受けて、JSPS 事業説明会を開催し、6名の同窓会員からの活発なプレゼンテーションがありました。リヨン第1大学はリヨンの新市街の北に位置し、医学部及び薬学部を中心とした、科学技術と健康科学についての学部をもった自然科学系の大学です。学生数は30,000人に及び、研究レベル、予算規模から見てもフランスを代表する大学のひとつです。リヨン第1大学では、Pierre PERRIN 国際担当副学長との意見交換のほか、物理・化学の研究室を訪問しました。東京大学、北海道大学、東北大学、神戸大学、関西学院大学、産業技術総合研究所、理化学研究所、分子研究所などと盛んに共同研究を行っていました。



MINATEC にて  
Patrick OZIL INPG 副学長  
( 左から2人目 )  
Nathalie BRUSSET INPG 国際担当官  
( 左端 )



グルノーブルにて  
JSPS 同窓会会員による談話会



グルノーブルにて  
JSPS 同窓会会員である Christian  
BOITET 教授によるプレゼン



グルノーブル INRIA 研究所訪問  
Brigitte PLATEAU グルノーブル情報  
学研究所長 ( 右から2人目 )  
Marie-Christine ROUSSET 同研究所  
教授 ( 同3人目 )



リヨン第1大学にて  
リヨン JSPS 同窓会員と



リヨン第1大学化学研究室訪問  
Maurice MEDEBIELE CNRS 主任研究  
員 ( 左から3人目 )

3月14日・15日 Institut de Biologie Physico-Chimique (生物物理化学研究所) および Institut Curie (キュリー研究所) 高等教育・研究担当省、Université d'Orleans (オルレアン大学) 訪問

14日に、パリにある生物物理化学研究所及びキュリー研究所を訪問しました。キュリー研究所では、研究部門ディレクターDaniel LOUVARD 教授(フランス科学アカデミー会員)を表敬訪問し、平成19年度に予定している第6回 JSPS フォーラム Chemical and Physical Nanobiology for Medicine で講演予定の Jean-Francois JOANNY 教授とフォーラムの打合せを行いました。

続いて高等教育・研究担当省のナノサイエンス部門長 Patrick ALNOT 教授、健康部門長 Dr. Dominique AUNIS を訪問し、上記第6回 JSPS フォーラムについての話し合いを行いました。

15日は、パリから移動してオルレアン大学を訪問し、国際オフィスディレクターGilles DESROCQUES 教授、経済学部代表、理学部代表との意見交換に加え、中谷センター長の学術講演会、JSPS 事業説明会を開催しました。オルレアンはパリから鉄道で1時間の距離にあり、ジャンヌ・ダルクの物語の舞台を今に伝える美しい旧市街を保存しています。オルレアン大学は、中世の1306年に起源を遡ることができますが、1961年に大学として整備され、現在は学生数15,000人、文理の4つの学部とエンジニアリングスクールをもち、オルレアン市の南に各学部が一体となった大きなキャンパスがあります。オルレアン近辺が、ディオール等のフランスの美容産業の一大拠点となっている関係から、オルレアン大学は地域美容産業との共同研究も盛んです。また、近年、日本との交流にも力をいれており、大阪学院大学、愛知大学、島根大学、天理大学、広島大学、南山大学、宇都宮大学と相次いで協定を締結し、学生交換等の交流がはじまっています。そのほか、大学付属のICOA (Institut de Chimie Organique et Analytique 有機・分析化学研究所、所長: Dr. Olivier MARTIN) ISTO (Institut des Sciences de la Terre d'Orléans 地球科学研究所) を訪問しました。



キュリー研究所にて  
Daniel LOUVARD 研究部門ディレクター、フランス科学アカデミー会員 (左から2人目)  
Jean-Francois JOANNY 研究ユニット長 (同3人目)



高等教育・研究担当省にて  
Dominique AUNIS 健康部門部長 (中央)



オルレアン大学にて  
Olivier MARTIN 有機・分析化学研究所長 (右から3人目)  
Gilles DESROCQUES 国際オフィスディレクター (右端)ほか大学関係者と



2006年10月から2007年3月までに、9つの都市を訪れました。訪問に当たっては、現地のJSPS同窓会メンバーの協力のもとに、各地の大学でJSPS事業について理解を深めて貰い、日本との交流についての意見交換を行うとともに、特色ある研究所の訪問を行っています。

## おしらせ

2007年3月末をもって、1年間当センターに勤務した吉原英恵国際協力員が帰国し、東京工業大学に戻ります。1年間のフランス滞在で得た知識と経験を生かし、今後の益々の活躍を期待します。